

新 “三ツ星”若狭牛の開発（H25～27 年度）

実施主体：福井県畜産試験場
 担 当：若狭牛ブランド化研究 G
 連携機関：石川県金沢食肉センター

1. 研究の目的・必要性

福井県で昭和61年に「若狭牛」が県産ブランド和牛に指定されてから25年以上経過し、時代とともに産地間競争が激しくなっている現状を踏まえ、新たな特徴のある「ブランド若狭牛」が求められている。

本研究では、食肉の美味しさの新たな指標とされる「オレイン酸」の向上技術の開発および美味しさに関与する遺伝子の活用による優良牛の選定技術の確立を図り、県内産飼料をできる限り使用した安全で安心な若狭牛の開発を行う。

2. 研究項目・内容・年度計画等

研究項目	研究内容	実施年度		
		H25	H26	H27
①若狭牛肉オレイン酸割合向上技術の開発	オレイン酸割合向上要因の解明とその結果に基づき、地域飼料資源を活用したオレイン酸向上飼養技術の開発	・飼料の種類等、肥育期間、枝肉成績等と脂肪酸との関連分析、官能評価 ← 飼料用米+米ぬか給与試験（現地試験） →	・種々な要因と脂肪酸との関連分析（データ蓄積、検証、修正） ← SGS+米ぬか給与試験（畜試験） →	官能評価 ← SGS+米ぬか給与農家実証試験 →
②遺伝子活用による優良雌牛の選定技術の確立	食味に関連のある遺伝子を利用したオレイン酸等向上技術の研究開発	・美味しさに関わる遺伝子検出 ※県内肥育牛の血液分析	・美味しさに関わる遺伝子検出 ※県内繁殖雌牛の血液分析	・選抜技術確立 ・優良雌牛選定、関連遺伝子特定 確保
事業費（千円）	試験研究事業	1,873	4,176	3,228
	備品整備事業	7,341	5,304	
	計	9,214	9,480	3,228

※SGS：ソフトグレインサイレージ（生粗を粉碎してサイレージ化したもの）

3. 期待される成果等（成果目標）

“三ツ星”若狭牛が開発され、福井県の県産ブランド和牛のプレミアム品として販売されることにより、

- ①県内産飼料を活用した安全安心な食材として若狭牛牛肉の信頼度アップ 現状：県内産飼料率 10% → 目標：55%
- ②“三ツ星”若狭牛牛肉の枝肉単価の上昇 5等級枝肉単価 目標：2,500円/kg
- ③優良子牛等の供給による若狭牛全体の美味しさ向上

4. 要求額 9,213,744円（試験研究事業）（地域科学技術振興研究事業（地域産業・技術振興課）にて要求

（財源：国庫10/10〔特別電源所在県科学技術振興事業費補助金〕）